

令和3年2月21日(日)長野市において六段審査を受審し、合格させていただきました。

あきらめずに挑戦し続けたこと、多くの先生方にご指導を賜ったことが実を結び合格につながったと思います。本当に有難うございました。

70歳代で女性である私には六段挑戦は大変厳しいものがありました。平成11年4月に五段をいただいて途中、病気・怪我・うつ病を患ったりして六段の道のは長く遠いものでした。 剣道をやめようと思ったこともありました。今はあきらめずに続けてこれた事はご指導いただいた先生方、支えてくれた友人、家族に感謝の気持ちでいっぱいです。そしてこの一年はコロナ感染症の影響を受けた一年でした。最初の緊急事態宣言が出て稽古のすべてが中止になった時、何が出来るんでしょう？と思いました。

真砂威先生の井蛙剣談の中から「たたみ一畳の修業」を拝読、出来る事をやろうと箇条書きにして壁に貼り、足が衰えないように先ず一万歩を目処に歩くことをしました。そして竹刀を少し短くして先重(さきおも)に整えゆっくりブレないように描いて技が決まった形、振り切ることなどやって形も美だと気づくことが出来ました。

今回、長野の審査会場で審査受審を決めてから緊急事態宣言が再延長になり、道場使用も制限され稽古も儘ならない中、事務局で確保していただいた稽古日

は大変貴重で有難い事でした。また、その稽古日は感染予防対策もしっかり行われ、栗原正和先生、安井信晴先生には毎回ご指導いただきました。有難うございました。

私は、元々スポーツは得意ではありませんでしたが、一念発起して始めた剣道は双子の息子が剣道を始め送り迎えをする中、息子と共通の話題一つだけ持とうと始めたのがきっかけで32歳でした。親子で防具を担いで通う稽古は至福の時だったことを懐かしく思います。そんな中、羽柴稔惇先生、岩切梅夫先生とご縁があり家庭婦人教室に入会させていただき現在に至り早や高齢者の部になってしまいました。稽古を続けて来た今、私は、稽古は基本に勝るものは無いと思うことです。稽古事のすべてに言えるように思います。まだ修業の途中なのでおこがましい事は言えませんが、先生方に色々な言葉で教えていただいた事、基本に辿り着くように思います。教えていただいた事を素直に聞き咀嚼し考えやってみるひとつひとつの動きの基本をしっかり身につけ、ブレない打ちが出来ると自信にもつながるように思います。

剣窓の寸評に、女性は男性相手に仕掛ける技ばかりでなく女性特有の拍子としなやかな体捌きによる理に適した返し技など工夫すると良いとありました。高齢者で女性、加えて身体も小さい私です。努力したいと思います。

現在、私は少年指導のお手伝いをさせていただいておりますが、子供たちと稽

古する中、少年少女からいろいろと学ぶことがたくさんあります。元気ももらえます。貴重な経験をさせていただけることに感謝し、これからも子供たちとともに基本を大切に厳しくも和やかに楽しく稽古を続けていけたら嬉しいことです。そして子供たちに剣道の楽しさも伝えて行きたいと思います。

先生方、これからもご指導よろしくお願ひ申し上げます。

令和3年3月10日 田原 恭子